副理事長方針

副理事長　井尾　泰隆

本年、大垣青年会議所は一つの節目を迎えます。ここまで会が存続してきたのは、70 年間の先輩諸兄の運動が、如何に地域に貢献し必要とされてきたかという、何よりの証拠です。地域に求められている以上、我々は活動を止めるべきではありませんし、その活動の土台となる大垣青年会議所は、今後も存続しなければなりません。一方、近年は、毎年のように入会者数が卒業生数を下回り、必然的に現役会員数も減少の一途を辿っています。会員数が少ないから、拡大活動ができない。拡大活動ができないから、会員数が減る。そのような悪循環に陥ってしまっているのが現実です。しかし指を咥えて見ているだけでは、この流れは止められません。今一度、会員拡大の手法、更には会の在り方を見直す必要があります。様々な問題が取り巻く現代、候補者を入会に導くためのハードルは十人十色で、いずれも低いものではないでしょう。入会することによって発生するデメリットもあります。逆に、入会する動機やメリットも、個人が置かれている環境や立場によって千差万別です。候補者一人ひとりに寄り添い、場合によっては入会の障壁となっている我々の問題を改善し、デメリットを超えるメリットを示すことで、必ずや多くの同志を迎え入れることができると考えます。

入会して得ることができる最たるものは、自己の成長です。日常の生活では経験することができない様々な試練を乗り越えることで、JAYCEE として、青年経済人として、更には一人の人間として、より成長することができるのが、この大垣青年会議所という場です。会員自身が成長し、社業や地域、そして JC 内外の人々に良い影響を与える。それに共感する人が増えれば、会は発展し、地域も更に発展する。この好循環に早急にシフトさせるため、人財の育成も拡大活動と同等に重要な任務であると考えます。

ひとづくり担当として、会のため、会員のため、覚悟を持って 1 年間活動してまいります。

副理事長方針

副理事長　嶋　崇志

「ニューノーマル」

「社会に大きな変化が起こり、変化が起こる以前とは同じ状態に戻ることができず新たな常識が定着すること。」その転換点に立ち会っている我々だからこそ、歩みを止めず、意見を交え、議論をし、行動を起こすことができるのではないでしょうか。逆にいえば変化が起きる以前の状態に戻すことができるのも我々ではないでしょうか。失敗を恐れず、人間が本来失ってはいけないもの「絆」、「繋がり」、「想い」を今一度取り戻しましょう。

今年度、「まちづくり」ではSDGsを念頭に置き、「ひと」や「まち」等西美濃の社会課題を改めて考え直します。身の回りで起きていることから目を背けず、当事者意識を持ち、基礎的な目標を定め、社会課題解決に向けた事業を展開していきます。

また、本年度は2020年から2022年の3年間における運動の方向性を示す「最重点ビジョン」の計画期間の最終年度となります。社会情勢を鑑み、模索し様々な形で活動を行ってきたことを踏まえながら、2020年からの運動を振り返り、2023年以降の大垣青年会議所の運動の方向性を示す意味でも会員同士が話し合い、次世代を担う若い世代にバトンタッチができるような策定を進めていきます。

そして、広域連携事業である「ツール・ド・西美濃」は、昨年新たな運営方法のもと、開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大が予断を許さない中ではありますが、手法に捉われず、本来の目的である「枠を越えた広域連携」、「住民が主役のまちづくり」を実現するためにも本年度の運営方法にアップデートした形を創造し、関係者の皆様と協議しながらより強固な西美濃連携ができるよう推進していきます。

ただ待つのでは無く、望むだけでは無く、自らが能動的にチャンスを掴み取りにいく。そのような会員が増え、会の意識改革が行われるよう、卒業を迎える最後の1年、チャレンジ精神を貫き大垣青年会議所の力となれるよう邁進していく所存です。

副理事長方針

副理事長　春山　大樹

2022年度に大垣青年会議所は創立70周年を迎えます。歴史ある大垣青年会議所は1952年2月に設立され、数々の困難を乗り越えながら先輩諸兄がこの西美濃地域と70年という長い月日を繋いで頂いてきました。

一方で世界的には新型コロナウイルス感染症拡大により、全ての人々が今までの生活を送ることを脅かされています。大垣青年会議所や各会員も活動や運動を今までのように行うことができていません。

70周年を迎えるにあたり、地域みらい創造基金の運用計画で70周年記念式典、70周年記念誌、70周年記念事業に多くの予算が計画されています。しかしながら大垣青年会議所の現状は、会員数が減少し経験年数の浅い会員が多くを占めています。更にはJCが単年度制で組織や事業が常に新しくなるという良い部分がある反面で、外部との繋がりの維持や実績の継承が難しい部分も考えられます。

70周年記念式典、70周年記念誌では周年という節目の年に今まで大垣青年会議所を支えて頂いた方々との繋がりを再構築、維持をする必要があると共に大垣青年会議所として目指している方向性を共有し、外部に伝える機会にします。

70周年記念事業では新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、社会情勢が著しく変化をしている中、更には外出自粛による経済の悪化などの影響も見受けられる状況下において、我々大垣青年会議所が70周年という節目の年を迎えるタイミングで、今まで活動や運動を支えて頂いた西美濃地域に感謝の心を持って、変化を起こし、地域住民一人ひとりが前を向き、未来を切り開いて乗り越えていく契機とします。

また、日本青年会議所はじめ、その他様々な対外事業の窓口となり、大垣市青年のつどい協議会への参画や社團法人花蓮國際青年商會との交流についてもWebなどを活用しながら継続していきます。

会員が今後の大垣青年会議所の方向性を共有し、一丸となってインパクトを起こし、明るい未来へと導くための先駆けとなるべく1年間邁進していきます。

専務理事方針

専務理事　長野　匠吾

大垣青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現という、同じ志をもつ青年経済人が集い、「ひとづくり・まちづくり」に対して真摯に取り組んできました。諸先輩方から継続した運動により、大垣青年会議所は地域の人々と共に西美濃地域の課題を解決することで、成果を積み重ねてきました。そして「明るい豊かな社会」を実現するために、まちづくり運動ビジョンを時代背景に即して具現化し、2020年代地域みらいビジョンを策定しました。これからも西美濃地域に新たな価値を創造する組織であるためには、青年会議所としてのあるべき姿を守りながら時代に即して行動すると共に、多様性や包括性を兼ね備えた持続可能な組織に変革していく必要があります。

そのためには、大垣青年会議所が70年間培ってきたプロセス重視の姿勢を持ちながら、変えるべきところは変えることで、未来を見据えた組織運営が必要です。掲げた目的を達成するために、背景から手法に至る論理の整合性を議論する中で、効果的に成果を上げることができます。そして、成果を上げた先にはひとやまちに価値のある変化を生み、西美濃地域に新たな価値を創造する組織であり続けることができると考えます。

本年度、事務局は、プロセス重視という組織風土を継承するだけでなく、予め起こりえる事象を想定し、柔軟に対応することで、大垣青年会議所の全ての運動の下支えをしていきます。また、大垣青年会議所が時代によって変わりゆくまちの課題を解決するために、守るべきと変えるべき基準を見極めることで、組織やメンバーが、社会情勢に応じて、将来どうあるべきであるかを最適に判断できるようにサポートします。

私は専務理事として、理事長や副理事長を補佐すると共に、組織の活動内容と進捗状況を把握し、組織の貫となります。未来を見据え変革する大垣青年会議所のために、そして人々が持続的に発展するまちの実現のために、物事を色々な側面で捉え、考えを巡らすことで任務を全うします。

常任理事方針

常任理事　星野　恵里

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、「例年通り」に青年会議所の活動や運動を行うことが困難になった状況の中、大垣青年会議所は 70 周年の節目の年を迎えました。70 年前に大垣青年会議所を設立された先輩諸兄より連綿と受け継がれてきた組織基盤があるからこそ、この困難な状況の中であっても青年会議所の活動や運動を行えることを先ずもって感謝申し上げます。しかしながらこのコロナ禍を経験したことにより、私たちが連綿と受け継ぎ次世代へと引き継ぐべき価値と時代に即して改善をはかるべきものに気づかされたのも事実であり、事務局にはこの二つをしっかりと見極める大きな責務があると思います。

青年会議所は、青年が会議を行う団体です。そして、全ての事業は総会をはじめとする諸会議を経て行われます。より良い事業を構築するためには、事業本来の目的やその目的を達成するのに最良な手法であるかなど、議題の本質的な内容が建設的に議論できる質の高い会議が求められます。また、上程される議案も質の高いものでなければなりません。事務局を担当する我々は、議案の精査も含む入念な事前準備を行った上で、定款や内規、各種マニュアルに則った正確な会議運営を行うことで、より良い事業の構築に貢献します。さらに、公益社団法人格を有する大垣青年会議所は、公正な会計処理を明示し公益事業を行う必要があります。本年度は、会員の皆様からお預かりしている会費に加え、先輩方が残して下さった地域みらい創造基金を使わせて頂き事業を構築していきます。当たり前のことではありますが、明確な財務運営を徹底していきます。

最後となりますが、会員一人ひとりが自信や誇りを持ち自身の力を最大限に活かして青年会議所の活動や運動に協力して取り組めるよう、盤石な基盤による組織運営と時代に即した積極的な改善を行ってまいります。